



京大病院 リスクマネージャーのみなさま、こんにちは。

京大病院医療安全情報131

「検査結果用紙・検体容器・同意書の氏名は、目の前の患者と一致していますか」

を本日、配信いたしました。科内や部署内で共有してください。

このインシデントについて解説します。

項目：

1. 本当に名乗らせ確認ができているの？

2. 手元情報の落とし穴(誤った手元情報)

1. 本当に名乗らせ確認ができているの？

誤った氏名の検体ラベルを貼って検体を提出すると、大きな事故になりかねません。

その事故の防止には、名乗らせ確認は有効ですが、実効性はあるでしょうか。

医師にとっては、毎日、診察している患者さん、名前をよくよく知っている患者さんに「お名前をフルネームで名乗ってください」とは言えない、という声が届いています。確かにそう思うこともあるかもしれませんね。

「名乗らせ確認」は、

医療者が名前を呼んで、患者がはい、いいえ、と答える方法では、患者さんはよく聞こえていなくても、「はい」ということがあって、危ないですよ、ということから生まれた工夫です。横浜市立大学の患者取り違え手術(1999年)では、患者さんに話しかけて、はい、という返事があり、その患者に間違いないと考え間違った手術室に搬送し、間違った手術を実施しました。2名の患者とも、間違った手術室に搬送されています。

名乗らせ確認してください、という理由は上記の事故を受けた対応ですが、実際にそれができそうでない場合も、2つの情報を照合する意識は必要です。以下の落とし穴については、名乗らせ確認でなくとも、ラベルの氏名を読む、という基本行動の実施で、事故を回避することができます。

2. 手元情報の落とし穴(誤った手元情報)

前回のメールマガジンでも、「手元情報」という言葉をご紹介しました。とても重要なキーワードなので、今回もこれを使って説明します。

5月25日配信の京大病院医療安全情報には、採血すべき患者さんは間違っていなかったが、血液を入れる容器に別人のラベルが貼ってあった事例を紹介しました。

「誤った手元情報」をもっていたのです。これは別の落とし穴です。名乗らせ確認しなくてもよいほど、患者さんを十分知っているのであれば、フルネームで名乗らせ確認する代わりに、①よく知っている「患者フルネーム」と②手元情報「検体ラベル氏名」が同一であるか照合してください。①と②が一致したらOKです。

今回紹介した事例では、そもそも②の情報を見ていませんでした。

今回は、「手元情報の落とし穴」について、お伝えしました

…一京大病院 医療安全管理室ホームページはこちら 一…

トップページ <https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~wwwrisk/index.html>

このメールは京大病院リスクマネージャーにお届けしています。

【お問い合わせ等】

京大病院 医療安全管理室

内線 4694